

博報財団 第11回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	NGUYEN Nhu Vu Quynh(グエン ニュー ヴー・クイン)
在住国名	ベトナム
所属・役職	ベトナム国立大学ホーチミン市校人文社会科学大学日本学部
招聘回(招聘研究期間)	第11回 (2017年3月1日～2017年8月31日)
受入機関	立命館大学
招聘研究テーマ	ベトナムにおける日本語文化・文学の教育および研究の充実を図る授業および教材研究
研究目的	グローバル化の進展に伴い、日本文学が世界に普及している中、ベトナムでの専門的な日本語文化・文学の教育が充実されることを願っている。特に、日本語学習者が急速に増えているベトナムにおいて、日本研究に関心を持ちつつある状況で、より実践的な日本語文化・文学の教育を更に探究・発展させるための背景には教育の充実が不可欠である。しかし、ベトナムでは、日本語文化・文学教育の教材不足及び授業法知識は不十分であり、日本の文学教授法及び教材に接触することは未だ十分ではないと思われる現在の課題を乗り越えるとともに、今後の日本語文化・文学教育が着実に発展されるために、日本での日本語文化・文学教育の研究を目指したい。
研究概要:	<p>立命館大学の文学カリキュラムに加え、日本の各大学を訪問・見学できた。各大学で日本文学に焦点を当て、日本研究、在日日本学、日本語翻訳・通訳等の授業を研究した。各大学の授業に参加したことにより、日本の文学・文化の知識・理解をより深めることができた。具体的には、シラバスは柔軟であり、豊富な教材・題材(映画、小説、記事等)などが授業・講義中に多く使用された。そのような授業では、受講生が文学の内容を正確に読み取り、さらに、それを先生だけではなく受講生が授業中に自ら発言して伝えることができるようにするという授業方法を知ることができた。</p> <p>更に、日本語学習者に必要な運用力「日本語翻訳・通訳」の授業法・テキストを研究することができた。</p> <p>日本研究の面では、多数の日本研究会、文学演習、講義、シンポジウム等に出席し、日本研究課題等を研究することが出来た。研究滞在中、発表及び専門関係論文を日本及びベトナム専門雑誌で多く投稿した。</p>
展望:	<p>今回の研究では、日本大学の言語文化・文学教授法及びテキスト・教材を研究した上で、ベトナムにおける日本学の授業に取り入れ、教育・研究を更に充実させ、高質のテキスト作成・授業の構成を望みたい。さらに日越文学比較研究を強化させ、学術交流を積極的に進めれば、日本の研究者を育てることもできると考える。そしてベトナム大学における日本研究を一層活性化させたいと考える。日本の研究者とも連携して研究を進め、日本研究ネットワーク作りへの役割を果たしたい。日本とベトナムの大学交流をより促進し、今後、両国の大学の架け橋的な役割を果たすことも期待する。</p> <p>そして、ベトナムでの日本語通訳・翻訳の学習者のニーズに効率に答えるため、本「日本語翻訳・通訳」授業研究成果を活かすことができると考えられる。</p>